

brainworx bx_saturator V2

Brainworx のプラグインをご利用いただきありがとうございます。



bx_saturator V2

bx_saturator V2 は、ミックス、マスタリングやサウンドデザインに使用可能な M/S & マルチバンド・サチュレーション・ツールです。

bx_saturator V2 プラグインは、ミッドとサイド・チャンネルのフェイズが完全に保証される真のスプリットクロスオーバー・テクノロジーを使用し、ミックスのステレオマスター・チャンネルや個々のトラックに使用し、それらにウォームで繊細な歪み成分を加える事ができます。

bx_saturator V2 は、クリエイティブなミュージシャンや、エンジニアに優秀な技術を提供する Brainworx の クリエイティブなプラグインの Rock'n'Roll ラインに属しています。モノラルバージョンのプラグインも提供していますが、これまでより繊細な違いがあり、バスやミックスなどの様々なステレオ信号を厚くブーストすることができるステレオ M/S プラグインがメインのバージョンであると考えています。

それらをクリッピングさせることなくミックスの聴感上のボリュームを上げ、それらの実際のレベルを上げることなくミックス内でのアコースティックギターや、パーカッションのような繊細な信号を過激なイコライジングをせずに引き出すことができます。また、ドラムのパンチやキーボードやギター・サウンドのクリアさを失うことなくミックス内のボーカルだけに歪みを与えることも可能です。ミッドとサイド、加えて高周波数帯と低周波数帯などを独立させて歪みを調節してサウンドを太くさせることができます。

自然なサウンド — 大胆なプロセッシング

プラグインのレイアウトが、分かりやすくできていると思うので、このマニュアルを可能な限り短く作りました。それだけにしっかりと読みください。主な特徴を理解し、それを最大限に活用することをサポートするでしょう。



Brainworx ツールバー

画面上部のツールバーではプラグインをバイパスすることが可能です。また、32ステップのアンドゥ/リドゥは、最初アイデアを失わずに他のセッティングを試すことができます。4つのセッティングは瞬間的にスナップ・ショットとして保存することができ、リコールすることができます。コピー/ペーストを使用して個々の設定をリセットすることも可能です。



メインパネル

XL Active は、bx_saturator V2 (モノラル・バージョン X2) の全 4 基の XL ユニットのオン/オフを切替えます。Mono Maker と Output レベルは、ここでバイパスされないで、これはグローバルなバイパス・スイッチではありません。または、それぞれのスイッチを使用して各 XL ユニートを別々にバイパスすることも可能です。(下記参照) Auto Solo は、特定のノブやコントロールをクリックしている間、その信号だけをソロにして、効果を聞き取りやすくします。この方法は、4 基の XL ユニートのいずれかに歪みを設定する場合にそれを簡単にさせます。

Master XL と Master Drive コントロールは全体の XL とドライブ・サウンドをコントロールし、その比率を保ちながら、別々にコントロールした 4 基の XL ユニートのすべてをブースト、またはアッテネートします。Master コントロールは、独立してコントロールした 4 基の XL ユニートのセッティングを維持したまま全体のコントロールを行います。

Mid / Side メーターは、ミッドとサイド・チャンネル間の比率を調整している値を表示します。M と S のアウトプットゲイン・コントロールを使用してレベルの修正を行うことができます(下記参照)。Output メーターや Over LED を使用してステレオ・アウトプットで発生する可能性のあるクリッピングをモニターすることができます。



XLユニット

4 基の各 XL ユニートは、そのチャンネルの歪みをメインのレベル XL ノブで個別に調整することができます。元のシグナルと歪んだシグナルのミックスコントロールとしてそれを見てください Drive コントロールは、歪みのレベルをコントロールします。実際のアウトプット・レベルをブーストすることなく知覚音量を増やすためのクリーンなマスタリング作業用の標準モードとして“1”を使用します(Compensation のモード 1 に設定)。Drive を 3~6 に設定するとロックやポップスのミックスのサイド・チャンネルに最適で、ソフトでクリーミーな歪みが得られ、ステレオサウンドに少しだけクランチ・エフェクトを加えます。7 以降に設定するとタイトなディストーション・サウンドが得られます。





Drive ノブの上にはレベル補正モードを切り替えるメニューがあります。デフォルトではモード 1 (Compens.1) が選択されています。これは自動的にドライブ・コントロールによるレベルの上昇を補正します。モード 2 (Compens.2) も同じですが、出力時に大きなサウンドをキープします。

- オフにした場合、アウトプット・レベルが大きく増加する可能性があるため、通常の使用ではレベル補正モードを 1 または 2 で使用することを推奨します。

Gain は、任意の XL ユニットをトリミング、またはブーストするために使用します。PRE モードにゲインを設定すると多かれ少なかれ歪みが発生します(インプットでのディストーション)。一方、POST は、実際のディストーション・サウンドを変えることなくトリムします。

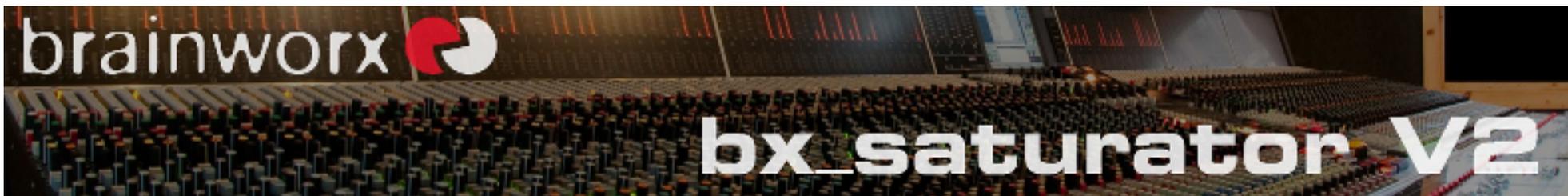


クロスオーバー・フリークエンシー

この 2 つのスライダーによってミッドハイ/ミッドローとサイドハイ/サイドロー・チャンネルの周波数レンジを選択することができます。左の例では、ミッド・チャンネルは、300Hz で分割され、サイド・チャンネルは 8kHz で分割されています。異なるスプリット・ポイントがディストーション・サウンドにどのような影響を与えるかを実験するために 2 つのフェーダー(相対モード)をリンクさせることができます。

例えば、タイトなドラム・サウンドを作るためにはバスドラムの周波数域(音色にもよるが、100~350Hz)のあたりでミッド・チャンネルをスプリットし、ミッドハイやサイドハイ・チャンネルよりもミッドロー・チャンネルには歪みを少なく使用してください。パリッとしたハイエンドを得るには、シンバル・サウンド(6~10kHz)の下でサイド・チャンネルをスプリットし、サイドロー、ミッド・チャンネルよりも、サイドハイ・チャンネルに多目に歪みを与えてください。

異なるサウンドや歪みの質に関しては、bx_saturator V2 プラグインの重要な要素の一つなので、X-Over コントロールの様々な設定を試してください。



M/S コントロール



Gain コントロールの Link モードを使用してプラグイン全体のアウトプット・レベルを増減させることができます。また、リンクしていない“M”と“S”ゲインの比率を変更することでステレオ幅を変更することができます。信号がクリップしていないことを確認するために上のグラフィックのアウトプット・レベル LED でモニターしてください。

Mono Maker は、多くの Brainworx プラグインで使用できる便利なツールです。基本的に位相(フェイズ)の問題を気にすることなく簡単にステレオ・イメージを広げられるようにモノラルにステレオの低域を加える事ができます。

このプラグインは、他の UAD-2 プラグインと同じようにインストールして使用することができます。アクティベーションやシステム要件等に関する一般的な情報は www.uaudio.com をご確認ください。